

ショートコメント vol.261 (2022 年 11 月 1 日)

テーマ：10月は物価の上昇率が3.6%前後に加速
 ～当面は3%超のインフレが続く可能性～

●消費者物価の推移

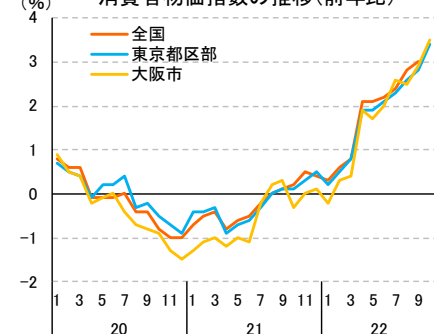
消費者物価の上昇が続いている。

全国の9月の動きは、前年比で3%の上昇（生鮮食品を除く総合）となった。すでに賃金の増加率を上回って久しく、消費への悪影響が広がっている。

エネルギーや原材料価格の上昇、円安の動きが続く中、企業の値上げが止まる気配はなく、特に10月には値上げが集中した。それに伴い、10月はインフレ率が一気に上昇するとの見方が強まっている。

10月データの発表は11月下旬であるが、東京都区部と大阪市分は、既に速報値が発表されている。結果は図表1のとおりインフレが加速し、東京都区部では3.4%、大阪市では3.5%となった。

【図表1】 消費者物価指数の推移(前年比)



(出所)総務省「消費者物価指数」、以下同じ

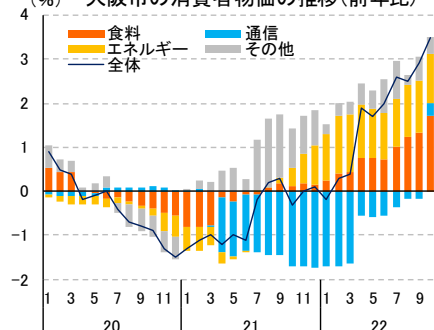
●10月の大阪市の状況

大阪市のデータで内訳をみると、10月は食料の伸びが加速している(図表2)。実際に、10月からはアルコール類や加工食品、調味料、外食などで一斉に値上げが進んだ。大阪市のインフレ率は9月から10月にかけて0.6ポイント上昇したが、食料の上昇が0.4ポイントを占める。

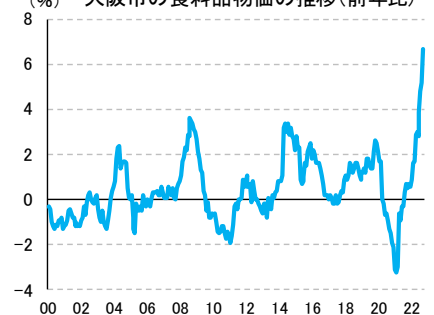
2000年まで遡っても、食料品価格の上昇率がこれほど上がったことはない(図表3)。食料の値上げは生活への影響も大きいため、今後は個人消費への影響に警戒が必要となろう。

一方、食料以外では通信費の推移も目立つ。これまでの低下から上昇に転じたが、これはいわゆる統計上のテクニカルな動きとみられる。菅前政権のもと、21年4月から携帯料金が大幅に低下し、物価全体の大きな押し下げにつながったが、徐々に前年比での低下が一巡し、10月にはプラスに転じた。

【図表2】 大阪市の消費者物価の推移(前年比)



【図表3】 大阪市の食料品物価の推移(前年比)



●当面の展望

10月は東京都区部、大阪市ともに、前月から上昇率が0.6ポイント伸びたことから、全国の10月は3.6%前後となる可能性が高い。もちろんユーロ圏や米国の高さとは比較にならないが、直近の約半年で2ポイント近く伸びている。その分、実質賃金のマイナス幅も拡大することから、消費の押し下げ圧力が強まることは避けられない。

そういった中、今後の物価の推移を展望すると、当面は3%を上回る動きが続くそうである。

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

仮に、食料価格を「前月比」で「上昇」（直近の上昇ペースは下回る）、通信を「横ばい」、エネルギーを「横ばい」と考えると、図表4のような推移が予想される。

10月以降も上昇率が拡大した後、来年1月にピークとなり、その後は上昇率が緩やかに低下する形となる。もちろん大雑把な前提に基づくものであるが、当面は3%台の推移となる可能性が高い。

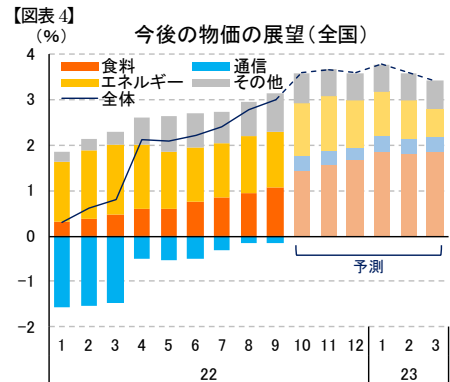
●**総合経済対策による物価の抑制効果**

一方、先日発表された総合経済対策により、来年1月以降は電気・ガス料金が引き下げられることとなった。これに伴い、物価上昇率が1.1ポイント程度低下するとの見方が一般的である。

図表4を元にすれば、来年1月の物価上昇率は2.7%前後、さらに3月は2.3%前後となる可能性が高い。

もちろん一定の引下げ効果は認められるものの、2%を超えるインフレが続く以上、消費への好影響は期待しにくい。加えて、食料品価格の推移が想定よりも上振れする懸念は拭えない。10月に続き、11月も各商品で一斉に値上げが進む見込みであり、当面は物価の大きな押し上げ要因となりそうである。

これらの物価の推移を背景に、実質賃金の低下が進めば、間違いなく節約志向は強まる。過去の動きに倣えば、不要不急の消費は抑えられることから、旅行、外食、衣料品の購入などに影響が出る可能性が高い。旅行は今のところ全国旅行支援で支えられているが、期限が切れる来年以降は注意が必要となろう。



本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL : 06-6258-8805 mail : hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。